

第3学年 国語科

教科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

伸ばしたい力（観点別）

- 1 「関心・意欲・態度」
 - ・自分の考えを言葉や文で伝え合うことや多様な言語活動への関心をさらに高め、国語に親しみ、言語感覚を豊かに広げる。
- 2 「話すこと・聞くこと」
 - ・相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話す能力をさらに伸ばす。
- 3 「書くこと」
 - ・段落相互のつながりや関係などに注意すること、自分の気持ちを工夫して表現すること、既習の漢字を使うことなどの能力を伸ばす。
- 4 「読むこと」
 - ・目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりする能力をさらに伸ばす。
- 5 「言語事項」
 - ・当該学年までに配当されている漢字を確実に習得するとともに、文章の中での的確に使う能力を伸ばす。

具体的な授業改善策

- 1 ・国語辞典を日常的に活用し、楽しみながら言語感覚を豊かにするためにクイズ等の活動を入れる。
 - ・単元を通して学習意欲が持続して取り組めるように単元の導入を工夫する。
- 2 ・話の筋道を考えながら話す能力を高めるために、1分間スピーチと授業内での発表を意図的に行う。
 - ・聞き手は相手の話の意図を汲み取り、質問や感想を意欲的に述べられるように聞くためのポイントを指導する。
 - ・日常生活の中から場面や状況を考えて言葉を選ぶことができるようにする。
- 3 ・書くことを習慣化させ書く力を育てるために、作文などに定期的に取り組む。
- 4 ・大事なことは何かを正しく読み取れるようにするために、キーワードとなる記述や語句に印をつけたり、線で結んだりすることでワークシート等を用いて文や段落の構造を視覚的にとらえられるようにする。
- 5 ・毎週火曜日に漢字テストを実施する。普段から文章を書く際はその中で既習漢字を意識して使うよう指導する。

評価・修正（年度末）

成果

課題

第3学年 算数科

教科の目標

算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技術を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。

伸ばしたい力（観点別）

1 「算数への関心・意欲・態度」

- ・新しい課題に対し、既習事項を思い出し活用しながら、一つの方法だけでなく別の方法を考えることができようになってきているので、さらに関心・意欲・態度の向上を目指す。

2 「数学的な考え方」

- ・既習事項を用いて、応用問題を解く能力や、文章題を正しく読み取り、自信をもって立式をし解決する力を伸ばす。

3 「数量や図形についての技能」

- ・大きい数や小さい単位、図形など数や量、形のイメージをもって問題を解く力を伸ばす。

具体的な授業改善策

- 1・児童の興味関心を高めるために身近な題材を取り入れる。発展的な問題にも定期的に取り組むことで算数への関心を高める。
- 2・絵や図で表したりする習慣を付け、立式への理解を深められるようにする。基本の問題をもとに、類似問題にできるだけ多く取り組み、既習事項をもとに解決する力を育てる。
- 3・具体物を用いたり、言葉や数、式、図を用いたりして考え、説明する活動を多く授業に取り入れる。
 - ・多くの学習問題に触れ、角度や面積の大きさについての量感を豊かにする。

評価・修正（年度末）

成果

課題

第3学年 理科

教科の目標

自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

伸ばしたい力（観点別）

- 1 「自然事象への関心・意欲・態度」
 - ・自然事象に興味をもち、追求しようとする姿勢を育む。
 - ・身近に見られる動物や植物と接することで、自然を愛護する心を育てる。
- 2 「科学的な思考・表現」
 - ・自然の事物・現象を比較しながら調べ、学習課題を追求していく活動を通して、科学的な見方や考え方を養う。
 - ・思考したことを他者にわかりやすく、論理的に述べる力を身に付ける。
- 3 「観察・実験の技能」
 - ・実験器具を正しく使う力や、実験をする際に必要なこと、実験の条件を考えられる力を伸ばす。
 - ・ノート、観察カードに必要なことを確実に記録する技能を身に付ける。
- 4 「科学的な知識・理解」
 - ・実験用具の名称、および科学的な用語の定着を図り、正しく使えるようにする。

具体的な授業改善策

- 1 ・単元の始めに興味・関心が高められ「動機づけ」ができるよう、ICT を活用したり、学習資料を充実・補完したり教材準備を十分に行う。
 - ・継続的に観察、飼育等、追究し続ける活動を取り入れる。
 - ・学習している内容が自分の生活とどれだけ密接にかかわっているかを実感させるよう体験活動を取り入れる。
- 2 ・生活科との違いを踏まえ、科学の手順に沿った学習活動を順序立てて指導する。
 - ・分かったことや考えたことを記述したり発表したりする場面を意図的に設定する。
- 3 ・実験器具や理科室の正しい扱い方について3年生から指導する。教師が師範を示すことで、技能の定着を図る。
 - ・観察や実験の計画を主体的に立てられるよう、必要な道具・器具は何かを児童自らに考えさせる場面を設定する。
- 4 ・実験や観察で理解したことを実生活と結び付けて考えさせる。
 - ・補足実験を行ったり、ワークシートを活用したりして、身に付けた知識の確実な定着を図る。

評価・修正（年度末）

第3学年 社会科

教科の目標

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

伸ばしたい力（観点別）

- 1 「社会的事象への関心・意欲・態度」
 - ・ 地域社会の一員としての自覚をもつと共に、地域社会に対する愛情を育てる。
 - ・ 実際に調査し、そこから得られたことを自分なりに分析することで、新たな課題を見つけ、さらに追究したいという意欲をもてるようにする。
- 2 「社会的な思考・判断・表現」
 - ・ 生活体験だけに頼らず、既習の事柄や観察、調査したこと、資料などを多角的にとらえ、友達と意見を交わしながら社会の一員として思考できる基礎を養う。
- 3 「観察・資料活用の技能」
 - ・ 地図や各種の資料を活用して情報を集める能力、課題に対して必要な情報はどれかを読み取る能力を伸ばす。
- 4 「社会的事象についての知識・理解」
 - ・ 身近な人々の生活の様子や行動から、理解を伴った知識の習得を目指す。

具体的な授業改善策

- 1 ・ 社会に対する意欲を高められるようにするために、社会科見学を実施し実際に見て学ぶ活動を多く取り入れる。
- 2 ・ 多面的にとらえて考えることができるように、ICT等を活用して内地の様子などを情報として提示したり、不足している視点や考え方についても補って提示したりする。
- 3 ・ 自分の考えや分かったことなど、学んだ資料を効果的に活用していけるよう、互いに見合ったり、優れた先例に触れたりする活動を意図的に取り入れる。
- 4 ・ 地域の人々との関わりの中で社会の仕組みや生活の様子を理解できる場面を意図的に設定する。

評価・修正（年度末）

第3学年 音楽科

教科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

伸ばしたい力（観点別）

- 1 「音楽への関心・意欲・態度」
 - ・歌唱表現では声量がより一層大きくなるよう、表情豊かに、腹式発声ができるようにする。少人数で音楽を作るという難しい環境の中で、声を合わせて歌う楽しさや、器楽合奏の面白さを感じさせ、自ら進んで表現しようとする意欲を育てる。
- 2 「音楽表現の創意工夫」
 - ・歌詞の内容や楽曲が現す情景を想像しながら、曲想にふさわしい歌い方を考えて、思いや意図をもって音楽をつくる力を伸ばす。
- 3 「音楽表現の技能」
 - ・楽譜から読み取ったことを歌や合奏の中でふさわしく表現できる技能を育てる。
- 4 「鑑賞の能力」
 - ・「音楽を形づくっている要素」のかかわり合いや、それによって醸し出される曲想を感じ取り、楽曲のよさや特徴を自分の言葉で説明する能力を伸ばす。

具体的な授業改善策

- 1 ・お腹の使い方を意識しやすい発声法を用い、継続的に発声練習をすることで気持ちよく声を出すポイントを見付けさせる。声と声、声と楽器、楽器と楽器とが響き合う美しさを感じさせるために、積極的に二重唱や合奏をする機会を設ける。
- 2 ・歌詞を音読して内容を理解し、曲想や音楽を形づくっている要素の働きを感じ取って、曲に合った歌い方を自分なりに考える活動を取り入れる。
- 3 ・音楽記号のフラッシュカードを用いて、繰り返し意味を当てる経験を積む。
 - ・歌唱表現の際、また器楽表現の際に、演奏上工夫するポイントを決めて演奏させる。
- 4 ・「音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズ）」と音楽とのかかわりを知り、楽曲のよさや特徴を捉え、聞き手に伝わる言葉で説明させる。

評価・修正（年度末）

第3学年 図画工作科

教科の目標

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

伸ばしたい力（観点別）

- 1 「造形への関心・意欲・態度」
 - ・造形活動を楽しみ、関心を持って取り組むことができる。制作方法や題材をよく鑑賞し、積極的に自分の作品に活かそうとする態度と、つくりだす喜びを味わわせる。
- 2 「発想や構想の能力」
 - ・自身の発想や構想を大事にし、アイデアを練って制作に取り組むことができる。表現をさらに伸ばし、題材や制作意図を活かした作品を生み出す力を育む。
- 3 「創造的な技能」
 - ・様々な道具や用具を自ら選択し、作品をよりよくしようと活用することができる。道具の使い方を正しく理解し、自身の作品に活かす技術を身に付けさせる。
- 4 「鑑賞の能力」
 - ・参考作品に対し感想をもち、仲間の作った作品のよさや美しさを感じることができる。児童同士の相互鑑賞を通し、作品の制作意図や思いを感じ味わうことができるようにさせる。

具体的な授業改善策

- 1 ・様々な題材や手法で作品制作を行い、色々な分野の造形活動へ興味を広げる工夫をする。
 - ・参考作品や資料を活用し観察力を身に付けさせ、自身の創作意欲を高めていく。
- 2 ・参考作品や道具を使った表現方法などを示し、自身のアイデアを深めていく。
 - ・想像力を働かせるために、作品の設定や用途を考えるなどの活動場面を意図的に設定する。
- 3 ・道具を机上に並べ、児童が使いやすいものや題材に合わせて選択できるようにする。
 - ・使用道具については全体へ向けて丁寧に説明し、その後扱う場面では個別に指導し上達を図る。
- 4 ・作品発表の時間を設けてお互いの作品のもつよさや美しさを感じ取らせる。
 - ・プリントを活用し、作品の感想をまとめ相手に感想を伝えるなど、児童同士の意見を共有させる。

評価・修正（年度末）

成果

課題

第3学年 体育科

教科の目標

心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

伸ばしたい力（観点別）

1 「運動や健康・安全への関心・意欲・態度」

- ・様々な運動に触れ合うことを通じて、好きな運動を増やし進んで学習に取り組もうとする態度を育てる。
- ・楽しく運動に取り組める場を設定することで、児童の運動への興味をさらに高める。

2 「運動や健康・安全への思考・判断」

- ・ゲームの型に応じて友達と協力して作戦を立てたり、ルールを工夫したりすることで、それぞれの運動で技の動きのポイントを理解したり、練習の仕方等を考えたりできる力を伸ばす。

3 「運動の技能」

- ・様々な運動経験をさせることで運動の能力全体を高める。

具体的な授業改善策

- 1 ・お互いを認め合う態度を養い、友達と共に頑張ろうとする態度を育てていくために、友達と協力する運動やかかわり合える運動を意図的に取り入れる。
 - ・扱う領域によって、児童が興味・関心をもてるように児童の実態に応じた指導計画を立てる。
 - ・楽しみながら技能を取得できるようなドリルゲーム・タスクゲームを取り入れる。
- 2 ・運動の得意、不得意に関わらず個人のめあてをもち、上達したことの達成感をそれぞれが得られるようにするために、単元に応じた学習カードを活用する。
 - ・ボールを扱うゲームでは、運動の中で、学習カードや作戦ボードを用いてチームのメンバーとより多く話し合う機会を設ける。
 - ・跳び箱や走、跳の運動では、良い動きを見付ける場面を設定する。
- 3 ・毎時間個人の技能を伸ばす時間やチームとしての技能を伸ばす時間を設定したり、技のポイントを明確にしめしたりすることで中学年として必要な技能の習得を目指す。
 - ・運動能力の基礎を養うために、コーディネーショントレーニングを効果的に取り入れる。

評価・修正（年度末）

第3学年 総合的学習の時間

教科の目標

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

伸ばしたい力（観点別）

- 1 「関心・意欲・態度」
 - ・母島の自然環境や昔から伝わるものに興味・関心をもち、自ら見付けた課題に関して主体的に追及していきこうとする力を伸ばす。
- 2 「課題解決能力」
 - ・自ら課題を見付け、見通しをもって計画的に追究したり体験したりしながら、自分で課題を解決する力を伸ばす。
- 3 「コミュニケーション力」
 - ・情報を収集する力、発信の仕方や表現を工夫する力を伸ばす。

具体的な授業改善策

- 1 ・地域の方や団体とのつながりを今後も大切にし、児童が母島の自然や社会との関わりをより身近にもてる場を設定し、興味・関心を高められるようにする。
 - ・大きなテーマに沿いながらも児童一人一人の興味・関心によって課題設定ができるように学習計画を立てるようにする。
- 2 ・学んだことや関心をもったことについて、インタビューをする、インターネットで調べる、本で調べるなど多様な解決方法を体験することで課題に対する解決能力を高めていく。
 - ・事前、事後の学習を計画的に行い、学習の効果を高める。
- 3 ・多様な情報の収集方法を体験させる。必要に応じて地域の方にも協力を要請し、母島の人とのかかわり方や情報のまとめ方についても経験を重ねられるようにする。
 - ・発信においては、母島のよさを伝えるために、楽しくわかりやすく発表したり、誰に向かって、何のためという視点を意識させたりして、まとめ方や表現の仕方を工夫できるようにする。

評価・修正（年度末）